

令和5年度 京都府立看護学校あり方懇話会（第2回） 概要

- 1 日時 令和5年4月25日（火）16時00分～17時30分
- 2 方法 web
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 概要

議題

京都府立看護学校のあり方について（前回からの継続）

（1）府立看護学校の教育環境と学生確保について

＜主な意見＞

- ・学生確保の観点において、京都市内から学生を集めることも重要である。学生が安心して勉学に励むためには、授業料や生活費に充当できるよう修学資金を増額する必要があると考える。
- ・府南部地域の学生が北部地域において臨地実習を行うことで、北部地域の実習病院等への就職につながると考えるが、実習病院の近くに宿泊施設がないなど、京都市内の実習と比べ学生の金銭的な負担が大きい。南部地域の学生が北部地域の病院等で臨地実習を行えるよう、補助制度の充実を検討すべきである。

（2）北部地域における看護職定着の拠点機能について

＜主な意見＞

- ・北部地域において安定してキャリア形成ができる仕組みづくりが必要であり、看護職員の離職防止という観点からもキャリアセンターの設置が有効であると考えられる。キャリアセンターを設置する場合は、複数名の専従の職員が必要ではないか。
- ・キャリア形成のためには、ライフステージを考慮した継続教育のプログラムが必要であると考えられる。
- ・修学資金は人材確保には有用であるが、人材の定着にはつながらない。定着のためには、病院の魅力を向上させることが必要である。そのためには、病院機能を上げることや、病院間の相互交流等により、教育環境の充実を図ることが大事である。
- ・復職支援として、子育て等により一時的な離職をした後すぐに復帰できるようなサポートが必要である。復帰したいと思ったときにスムーズに復帰ができるよう、キャリアカウンセリングやリカレント教育等の支援が必要である。